

連続講座「遺跡が語る戦国時代の京都」第 5 回

天文法華の乱の遺跡

(公財)京都市埋蔵文化財研究所 平尾政幸

天文初年頃の洛中には法華二十一箇寺といわれる法華宗寺院が存在していました。天文法華の乱の舞台となるこれらの寺院は、乱によりことごとく破却されます。今回は、本国寺や洛北松ヶ崎の妙泉寺など、これまでに発掘調査された法華の乱に関連する遺跡についてお話ししたいと思います。

1 法華一揆の背景と天文法華の乱

法華宗の興隆と京の町衆

- 応仁・文明の乱後の復興と新興の有力町衆の台頭
- 一向一揆や土一揆に対する防衛・武装集団の形成
- 政治力の増加・既得権益や他宗派との対立
- 山科本願寺焼き討ち

2 法華宗の寺院

法華二十一箇寺

- 妙顕寺・住本寺・妙伝寺・妙覚寺・頂妙寺・本満寺・本国寺・妙満寺・立本寺・本能寺・妙蓮寺・上行院・本法寺・妙泉寺・本隆寺・本禅寺・本覚寺・宝国寺・学養寺・弘経寺・大妙寺

洛中に集中している

広大な敷地

構（土塁・堀など）城砦的な防御施設を持つ。

3 天文法華の乱に関連する遺跡

本国寺（本圀寺）

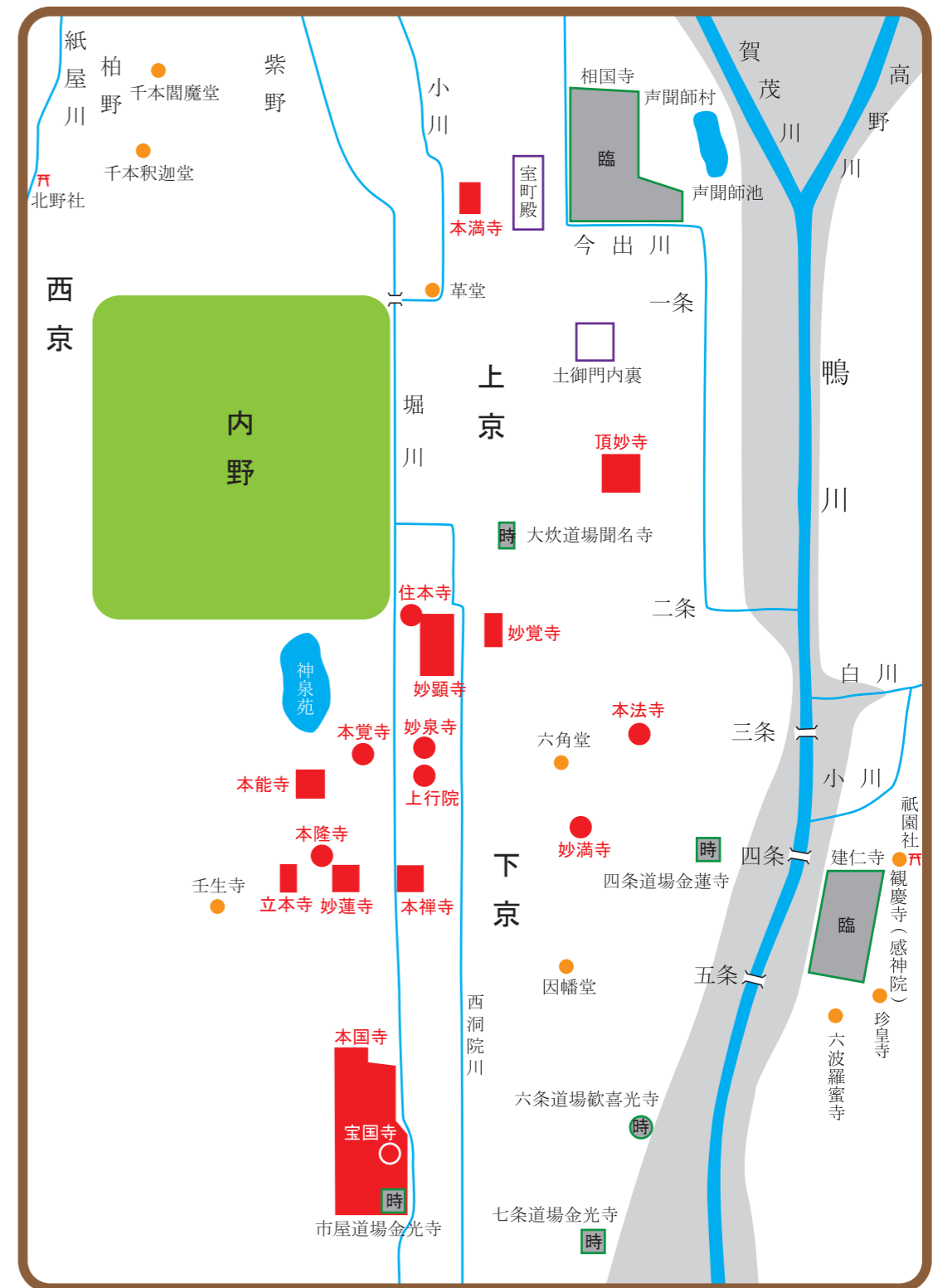
寺域の北部・東南部・南西部の 3 箇所を調査。堀跡など多数の遺構。

四条大宮周辺（立本寺・妙蓮寺など）

松ヶ崎妙泉寺

松ヶ崎小学校校内の 3 箇所で調査。土塁や石垣を検出。

4 まとめ

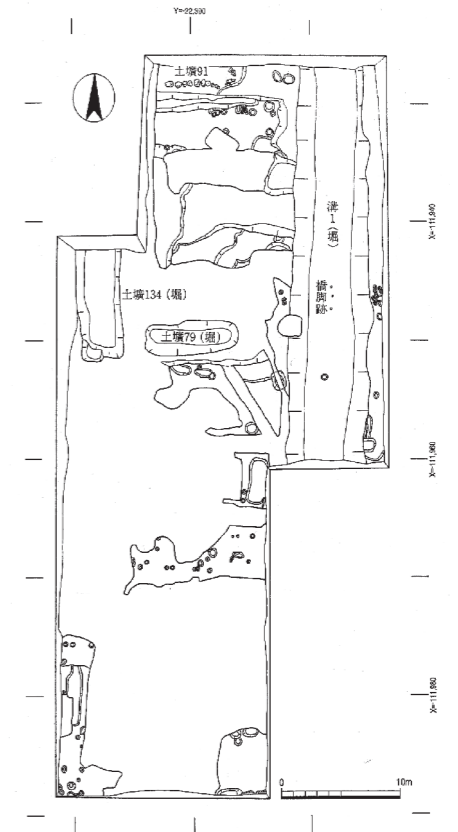
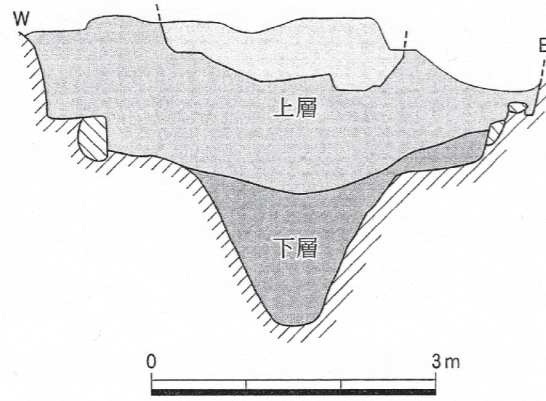
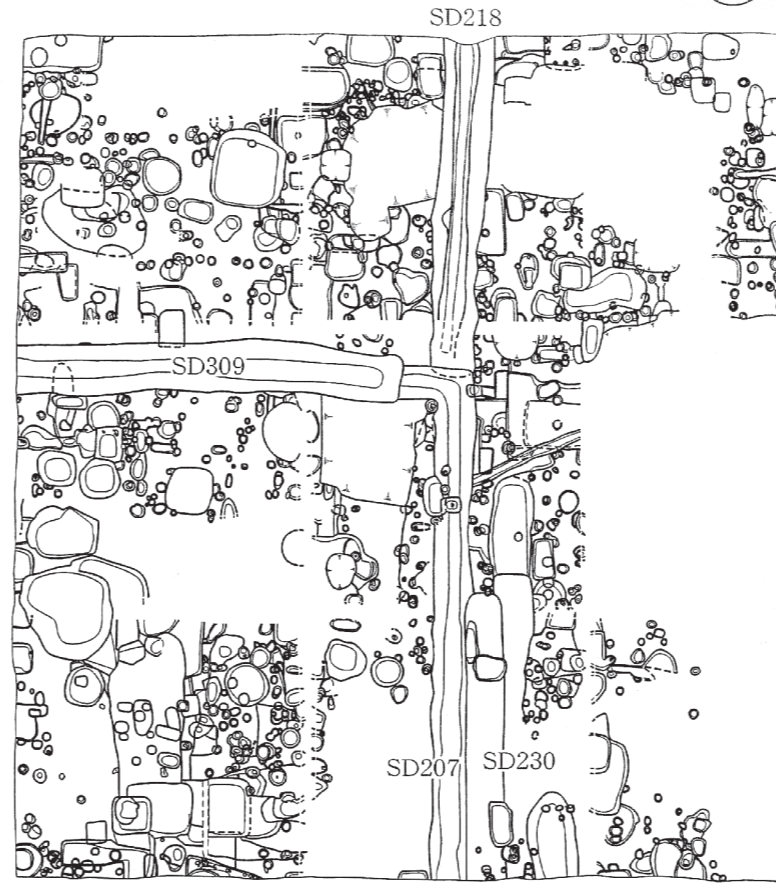
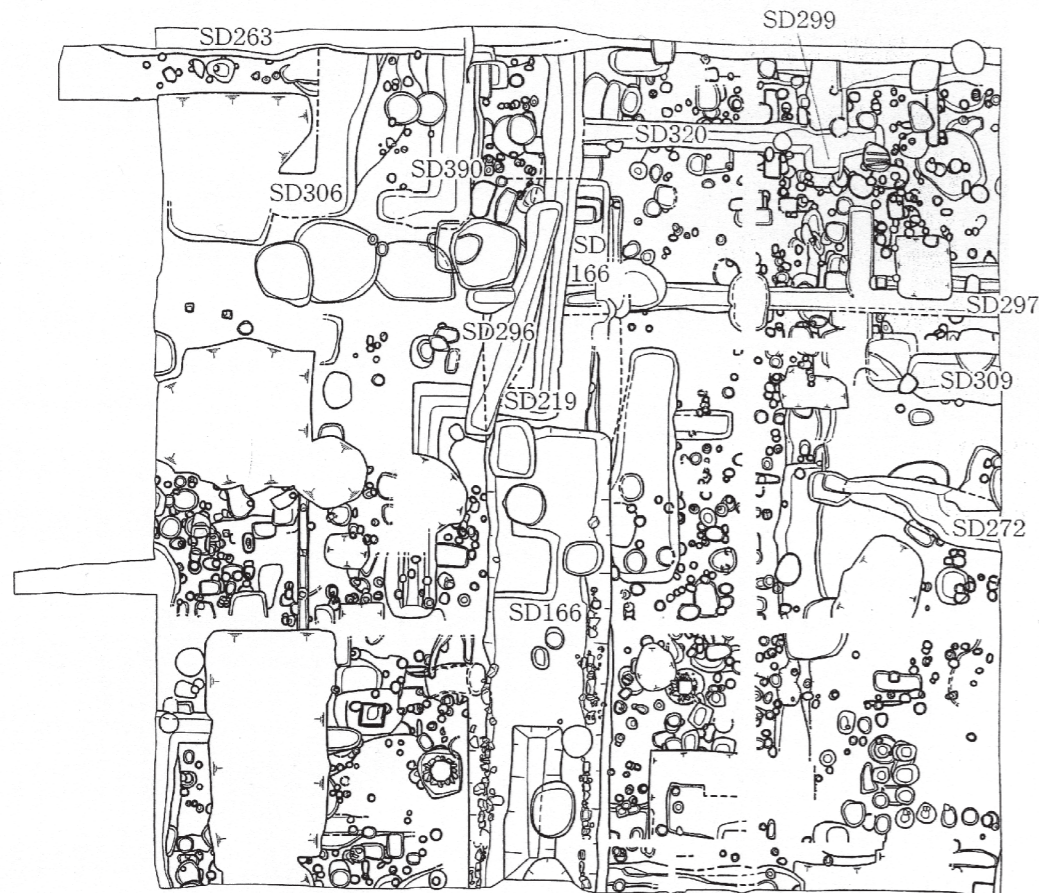


京都市編『京都の歴史』第3巻から（一部改変）

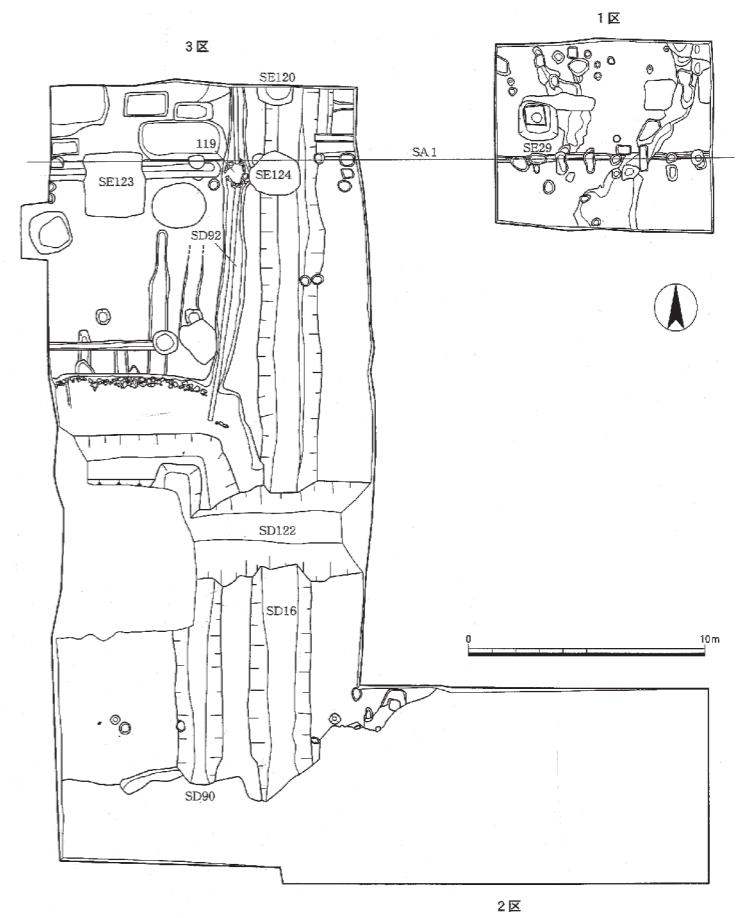
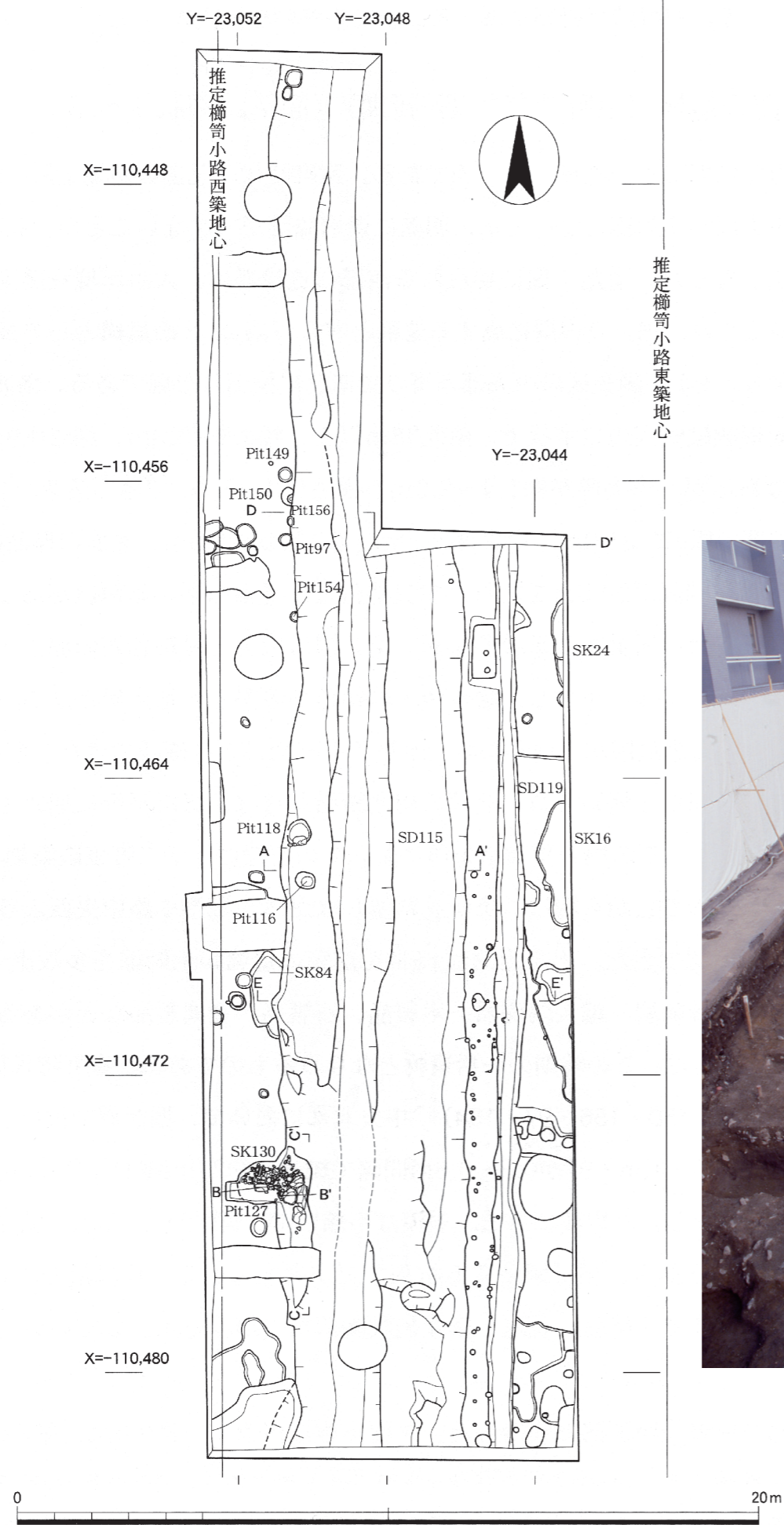
- ● 法華宗寺院
- ● 時宗・臨濟宗寺院
- 旧仏教系寺院・町堂
- ⚡ 神社

※ 図示した以外に位置の特定できない妙伝寺・学養寺・弘教寺・大妙寺の4箇寺があった。

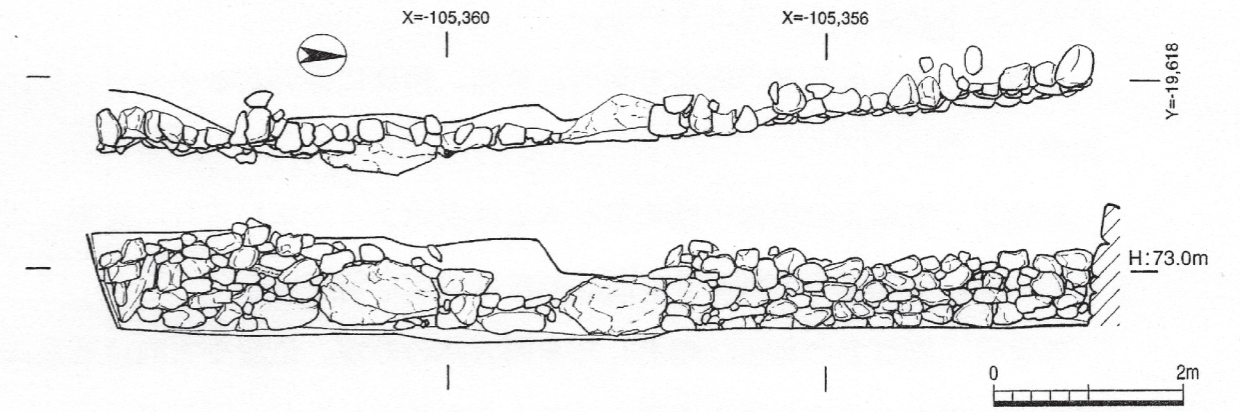
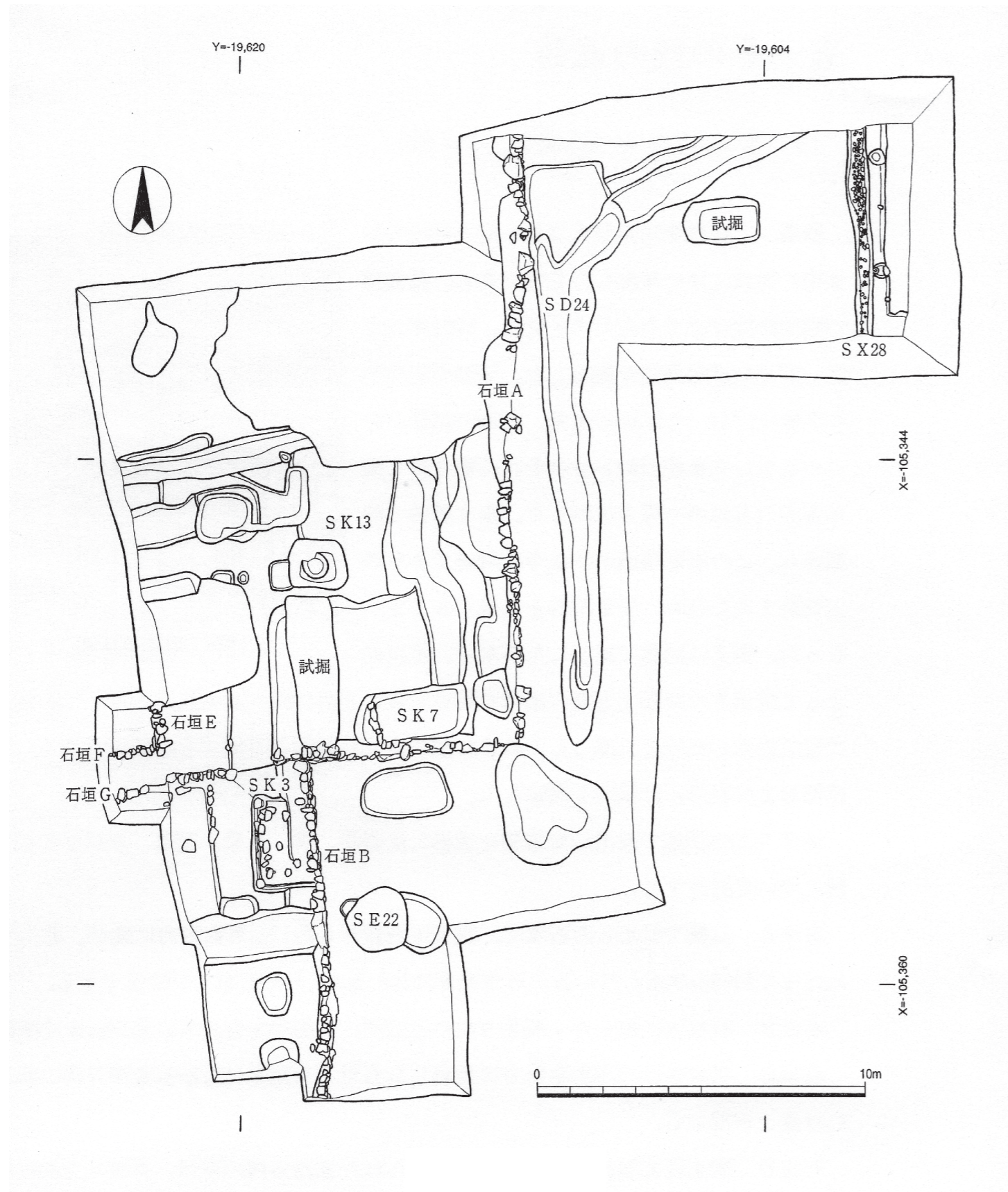
本国寺の遺構



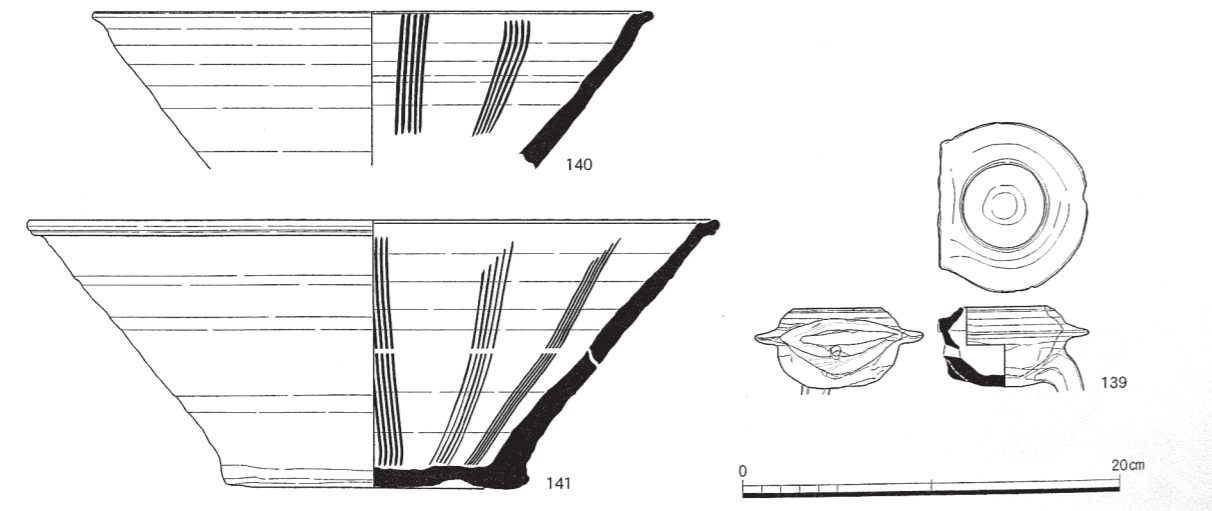
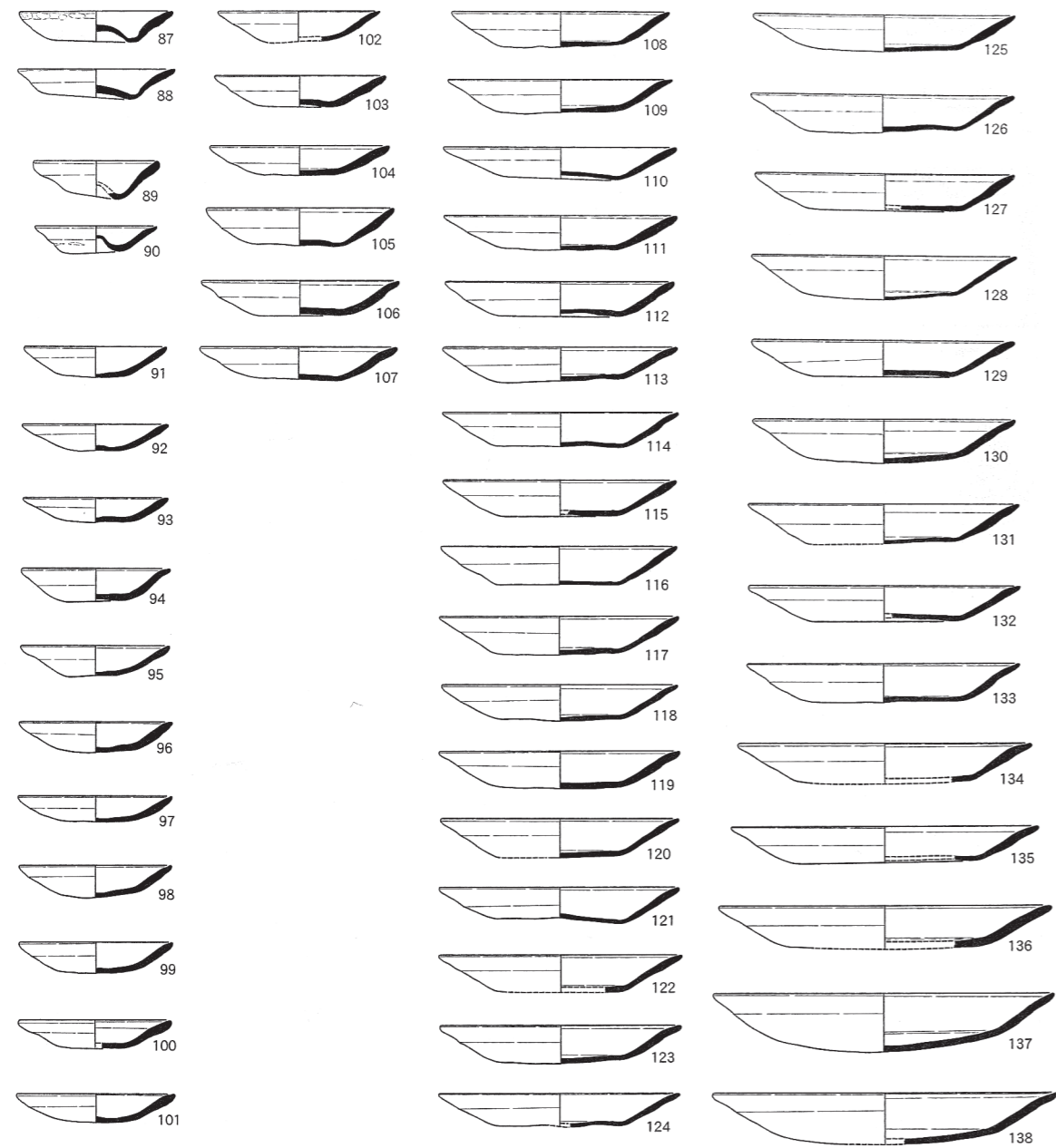
四条大宮周辺の遺構



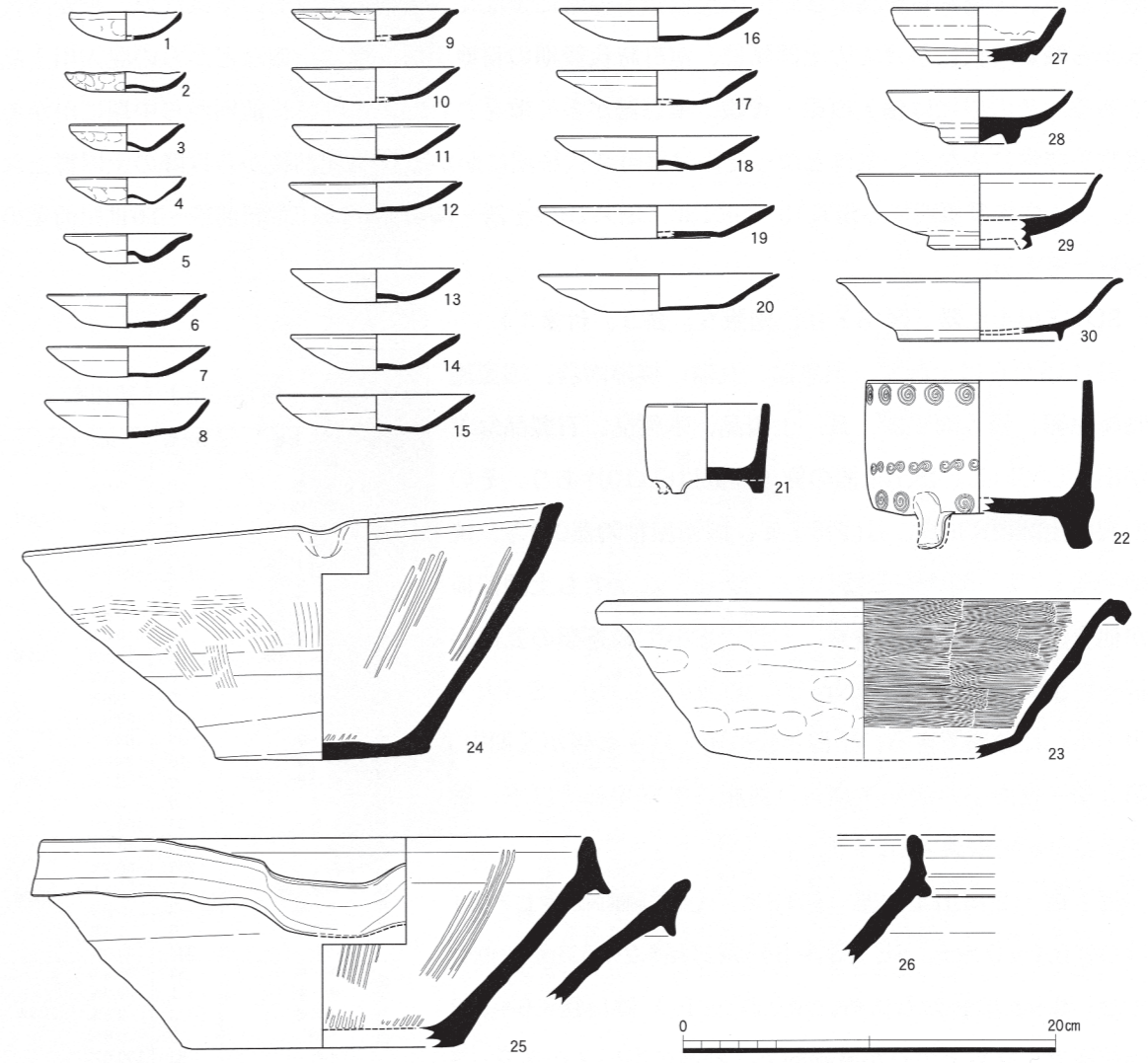
松ヶ崎妙泉寺の遺構



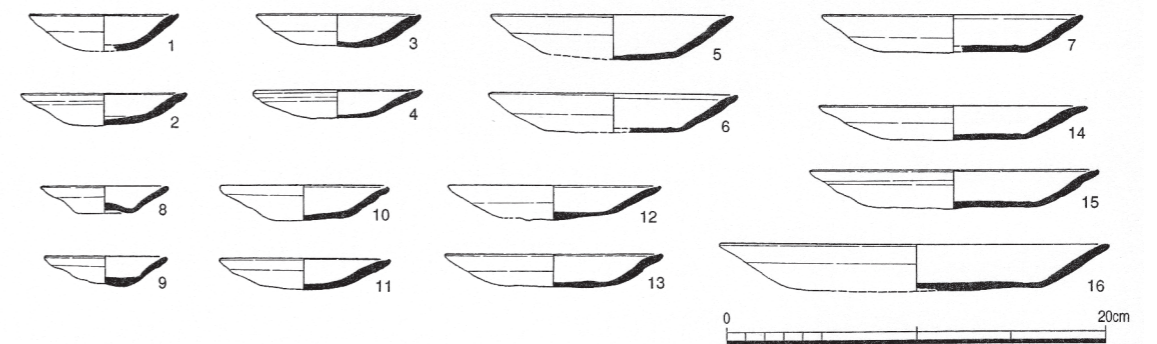
本国寺の遺物



四条大宮西（櫛笥小路）堀跡の遺物



松ヶ崎妙泉寺の遺物



本国寺略年表

貞和元年 (1345)	日静 堀川西・六条坊門南・大宮東・七条北の12町を光明天皇より賜る
延永元年 (1356)	足利尊氏・義詮 祖師堂建立に木材を寄進
康暦元年 (1379)	義満 大客殿の木材を寄進
至徳3年 (1386)	五重塔建立
応永5年 (1398)	後小松天皇より勅願寺の綸旨を受ける
長祿年間 (1457-1460)	太田道灌 蕃神堂建立 13世日遵は道灌の子
大永7年 (1527)	将軍義晴の陣所となる
天文元年 (1532)	「・・・本国寺要害馳走」(『二水記』) 六角定頼・法華宗徒ら山科本願寺を焼く
天文5年 (1536)	天文法華の乱により全焼
天文16年 (1547)	旧地に庫裏・居間・体面所・書院・玄関・本堂・唐門・出仕門・高麗門などを建立 本尊遷座式を行う
天文17年 (1548)	細川晴元 刹堂を再建 八条猪熊戒光寺薬師堂を移築し祖師堂とする
永祿6年 (1563)	将軍義輝 本国寺を門跡寺院とすることを図るが山門の反対により挫折
永祿11年 (1568)	織田信長入洛に際し本国寺を将軍義昭の館とする
天正13年 (1585)	豊臣秀吉より山城国菱川村に朱印地177石を与えられる
天正18年 (1590)	日秀尼(秀吉姉)立像堂・大客殿を建立
天正19年 (1591)	寺地南二町を本願寺造立のため減じられる
元和元年 (1615)	徳川家康により寺領安堵
寛永元年 (1624)	本堂重建
貞享2年 (1685)	水戸光圀 母の追善供養を修する 寺名を本圀寺と改める